

燃料油流出と発電機からの発火事象について



首都圏CCS株式会社 代表取締役社長 屋 義昭より地域の皆さまへ

このたび、当社が実施するCCS試掘作業現場において、燃料油約37リットルの流出および発電設備の発火・焼損事象が発生し、地域の皆さまにご心配をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

皆さまからの信頼を損なう結果となったことを重く受け止め、再発防止に全力で取り組み、安全を最優先に作業を進めてまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

燃料油の流出について

- **発生したこと**：8月22日、作業支援船から掘削装置へ給油していた際、給油ホースが破断し、約37リットルの燃料油が海上に流出しました。
- **対応**：海上保安部の監督のもとで海水をかくはんし、自然浄化を促しました。また、発生直後から巡視を行い、海岸への漂着がないことを確認しました。8月23日には、海上保安庁から流出油の消滅が発表されました。
- **再発防止策**：給油方法を見直し、掘削装置側の強度の高いホースを作業支援船の給油口へ直接接続する方法に変更しました。あわせて、燃料油が海上へ流出しないための防護措置を講じ、関係当局による安全確認を受けました。

発電機からの発火について

- **発生したこと**：8月29日、発電機の吸気系統に過剰な負荷がかかったことにより、発電機の吸気フィルター（紙製）から発火しました。
- **対応**：直ちに二酸化炭素消火器にて消火しました。
- **再発防止策**：発電機の総点検と部品交換を行い、専門家による原因究明と安全確認を実施したうえで、9月6日に掘削作業を再開しました。

近隣住民の皆さまには、ご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます。今回の事故が発生した作業以外においても、当社は安全確保のための3つの取り組みを“改めて”徹底いたします。

1. **設備の点検・確認**：使用する設備や機器の点検を徹底します。
2. **作業手順の確認**：作業前のリスク確認と安全手順の遵守を徹底します。
3. **異常時の迅速な対応**：異常を確認した場合は、直ちに作業を停止し、関係機関とも連携して対応します。

九十九里沖で実施している掘削調査について、作業スケジュールを変更しました。
変更後の予定と理由をお知らせします。

掘削調査地点	変更前	変更後
1本目掘削(沖合約5km)	2026年7月～10月(4ヶ月)	2026年7月～12月(6ヶ月)
2本目掘削(沖合約13km)	2026年10月～2027年1月(3ヶ月)	2027年1月～3月(3ヶ月)

- 掘削装置の到着後、悪天候などにより待機期間が生じたため
- 掘削装置の着底作業に時間を要したため
- 8月に発生した発火事案を受け、安全確認や再発防止対策の実施に伴い、一時的に作業を停止したため
- 調査内容を充実させる目的で、一部調査・作業が増えたため

引き続き、安全の確保を最優先に、関係機関、関係自治体、漁業関係者および地域住民の皆様に対して作業状況を丁寧に説明しながら、作業を進めてまいります。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
準備			現在							
掘削(1本目)										
	海水の圧入試験・データ取得									
	井戸の安全閉鎖・機材の片付け									
	2本目掘削の準備									
	掘削・データ取得(2本目)									
	井戸の安全閉鎖・機材の片付け									

海の駅
九十九里

コミュニケーション
センター「うみとみらい」

片貝新堤防
片貝港南堤
片貝港中堤防

Google Maps

